



NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2016
3月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～一関市のスポーツ振興と地域づくり～
- 4 | 団体紹介～千厩地域市民劇場 どっから座～(千厩)
- 5 | 地域紹介～室根第15区自治会～(室根)
- 6 | 企業紹介～株式会社 須藤食品～(花泉)
- 7 | センターの〇〇～平成28年度 いちのせき市民活動センター実施事業～

一関市のスポーツ振興と地域づくり

対談者 一般社団法人 一関市体育協会 会長 佐山 昭助さん
同 事務局長 佐藤 甲子夫さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

旧市町村体育協会合併と組織体制

【小野寺】佐山さんは一関市体育協会（以下、体協）の会長としてご経験が長いようですが、合併後の組織体制や業務など詳しくお聞かせください。

【佐山】平成 19 年、旧藤沢町を除く 7 つの体育協会が統合し一般社団法人一関市体育協会が発足したわけですが、もともと私は旧大東町の体育協会会長をしていたので、平成 17 年の市合併以降から体協統合に向けた準備会に携わってきました。組織内容を決めるのに、丸 2 年かかったわけです。なぜなら、旧一関市は昭和 56 年から法人化していましたし、各旧町村の場合は教育委員会が事務局を担っているなど温度差があったからです。さらに、各市町村・各地域なりの特色があるので、それを活かしたり残したりする工夫が必要でした。合併して 10 年経ちますが、地域の特色を生かすことは今でも我々の基本としていることです。



一関市体育協会
会長 佐山昭助さん

【小野寺】なるほど、十分な協議の上で合併がなされたのですね。現在の施設管理や職員についてはどのような規模なのでしょう？

【佐山】現在ユードームを含めて 58 施設の指定管理を受けています。正職員は 16 人、嘱託職員が 27 人でパートタイマーを含めて 100 人以上を雇用しています。

【小野寺】各地域にあるスポーツ施設の指定管理では、職員数のバラつきもあるような気がしますが。

【佐山】施設長を含めて二人体制のところもあります。施設長は地域間で兼務している所もあるので、それは解消しなければと考えています。限られた人数の中で組織しているからこそ、施設管理業務と事業業務を円滑に遂行できる機能的な組織体制を事務局長と検討しているところです。組織としては、各スポーツ少年団が 139 団体、地区体育協会が 39 団体、競技協会が 31 団体です。

スポーツ振興の現状と課題

【小野寺】体協の日常業務で主となる部分は？

【佐山】市民が生涯スポーツで健康に暮らすことが我々の目的としているところですから、各年齢層が興味をもって運動等に関わってもらえるよう普及活動を常にしています。特に“いちのせき体操”は小さな子どもからご高齢の方まで参加できるようバージョンを分けておりますし、指導員の養成にも力を入れています。施設については利用者が快適な環境で利用してもらえるよう安心安全な施設運営を徹底していますし、各係長や施設長の他、地域担当者などで構成する連絡調整会議で現状や課題の共有も行っています。各種目については、競技協会が自主的事業を行い、我々はその共催や後援という形でサポートしています。

【小野寺】“一体感の醸成”というのが合併時の特徴だと思んですが、体協としての“一体感の醸成”とはどのようにとらえていますか。

【佐山】競技協会や地域の強化と考えています。強化を図るためには、自分から行事があれば足を運び、実際に競技を見て役員の方々と話し合いをすることですね。事業費がもっと多くあれば地域の強化や職員を多くおく

ことが可能ですけれども、課題と紙一重になります。が、「最小の経費で最大の効果を生む」このことが大事なことです。

【小野寺】一関市も合併してから、どうしても本部に集中しがちで、地域が弱いというところがあるなど感じますが、その地域の強化というのが“お金がなくとも強化できる仕組み”が必要なんだと感じています。やっぱり体協もそこが課題なのですね。

【佐山】市合併後、一関市には地域のスポーツ団体を束ねる組織がないから、一関市にもそれがあれば良いと感じますね。“市民体育大会”は、一関地域以外はその地域の組織が主催となって運営していますが、一関は本部主催。私が思うにはやはり別なんじゃないかなと思う。一関にもその地域の長がいて、他の地域と同じように行事開催することが望ましいと感じるのです。

【小野寺】確かに、本部機能と現場をみる地域の機能とは全然違いますからね。では、「地域ごとの特色を」と言ったときに、「この地域にはこのスポーツ」というのはあるんですか？

【佐山】スポーツ振興に関わる特色は各地域に任せています。いままでの歴史伝統を踏まえて各地域が自主的に計画を立てています。

【佐藤】本部の自主事業としては、中東北の関係で栗原市、登米市、一関市でのスポーツ大会で交流を図ろうと計画中です。



一関市体育協会
事務局長 佐藤甲子夫さん

スポーツ振興と地域づくり

【小野寺】最後になりますが、これから体協としてどんな地域づくりをしていきたいですか？

【佐山】市長が進めている協働のまちづくりについて、まず我々も理解し、職員自らの意識改革が必要になってくると思います。体協の職員は若い人が多いから、その発想を取り入れ、地域と一体になってやるために「どうしたらいいか」をみんなで考えていきたいと思っ

ています。行政ができないことを我々がやるのですから、「行政と同じでは体協はいらない」とならぬように。まず、新しい発想が必要。合併して10年ですから、平成28年度は“新しいスタートの年”にしたいと思い、各団体と絶えず連携を取りながら地域づくりにも参画していきたいと思います。センターさんでは各地域を回って多くの住民の話を聞ける体制が整っているの、さまざまな意見がでることでしょう。ぜひ地域で出た意見等を共有して頂きたい。



【小野寺】もちろんです。繋いでいきたいと思います。大きい体協の夢としては、「一関市からオリンピック選手を」だと思いますが、オリンピック選手一人出すにしても、その地域で環境が整ってないと人材を育成できないという事ですよ。そういえば、事務局長がFMあすもで情報発信を広く行っていますね。

【佐山】メディアの活用も、「体協はこういうところだよ」というのを分かってもらうための一つの手段。まずは体協を理解してもらわなければならないから。

【佐藤】体協というのは、組織が大きくなればなるほど市民から離れていってしまう。下に来れば来るほど地域に密着するから、なるべく密着する機会を多くしなければと感じています。

【小野寺】10年一区切りといえますから、“体協のスタート”を楽しみにしています。地域協働体が立ち上がり、体育とか運動、健康面は体協との連携が不可欠ですから。体協も地域づくりの一緒の仲間ですからね。

基本情報

【一般社団法人 一関市体育協会】

会長 佐山 昭助さん

〒021-0131 一関市狐禅寺字石ノ瀬 25-3

(一関市総合体育館内)

電話 0191-31-3111 FAX 0191-23-2108

千厩地域市民劇場 どっから座

団体 紹介



どっから座の皆さん

～基本情報～

- ◆座長：小野寺 一夫さん
- ◆連絡先：〒029-0802
一関市千厩町小梨字館前 15
- ◆電話：0191-52-4794

手作りの演劇で伝える地域の物語

念願の町民劇

今年3月に第13回公演を控える千厩地域市民劇場「どっから座」。千厩地域に伝わる昔話や言い伝えを題材にした演劇を続けて今年で16年になります。今回は、今年度から座長になった小野寺一夫さんと今年の脚本を担当した小野寺敏男さんにお話を伺いました。

今では地域に定着したどっから座ですが、活動のきっかけは平成11年に遡ります。当時、千厩町職員だった小野寺敏男さんは「千厩の文化事業として町民劇場をやりたい」と考えていました。その思いが財団法人千厩町教育文化事業団で話題になり、翌年には実行委員会が立ち上げられ、話し合いの中で出てきた「ほんなもん、どっから」という方言を愛称にして「どっから座」がスタートしました。

演劇の経験はなく、小道具も手作り、機材も業者から借りるなど、試行錯誤の繰り返しでしたが、待望の町民劇場ということでスタッフやキャストはたくさん集まり、千厩川の「色の御前滝」を題材にした初公演「小田の小次郎物語」には1,000人以上の観客が集まりました。

地域密着“おらほの芝居小屋”

脚本は地域に伝わる言い伝えや資料を基に書いていきますが、演劇の舞台となる地区が決まれば、まずはその地域を見て歩き、脚本のヒントを探します。実際に見たり触れたりすることで役を演じる際にも風景や空間をイメージしやすくなるそうです。

劇のこだわりは台詞回しに必ず方言を使うこと。「ゆっくりとしたテンポになり、聞いているとホッとするね」と脚本担当の小野寺敏男さんは微笑みます。台詞

だけでなく、観客を飽きさせないようにと毎回劇の中に地元の郷土芸能を入れる等、楽しく、身近に感じられる演劇づくりに取り組んでいます。

キャスト・スタッフの確保や本番直前にならないと実際の会場で機材を使ったりハーサルができないなどの苦労も多いそうですが、「それがメンバーの意識の高まりや一体感の醸成につながっているし、舞台もどこにもない手作りの芝居小屋の雰囲気を出せている」と前向きに捉えています。

これからも伝えていきたい地域の昔話

今年3月13日に開かれる第13回公演「仏坂の孝行息子 善八の物語」は磐清水地区に実在した人物である善八をモデルにした創作劇です。

脚本を書いた小野寺敏男さんは「1人で年老いた父親と病弱な母親の世話をし続けた善八の物語は、介護や家族のあり方が問われている現代にも通じるものがある。昔話や言い伝えを地元で知っている人は少なくなってきたので、これからも千厩に残る昔話を1つでも多く演劇にして、地域に伝えることができればいいね」と語り、小野寺一夫さんも今後の活動について「メンバーが年々高齢化しているので、若いキャストが増えてほしい。若い人が入ると雰囲気が全然違うし、自分達のやる気も増す」と続けました。どっから座では、一緒に演劇をつくるキャスト・スタッフを募集中です。



第12回公演「ひたむきに生きた娘 おかよの物語」
※第13回公演については「おしらせページ」に掲載しております

地域 紹介



自治会長 新沼一郎 さん

～基本情報～

- ◆自治会長：新沼一郎さん（3期6年目）
- ◆68世帯262名が暮らす農村地域で、自治会は、総務部・生活環境部・体育部・産業部・女性部・福祉部で構成しています。

行政・地域の連携による地域農業の成長

室根地区における集会所の歴史

室根第15区自治会（以下「15区」）は、主要道路である県道本吉・室根線が南北に走り、矢越駅から南に約5kmに位置し、緑に囲まれ大川の支流、澄川が流れる自然豊かな農山村地域です。この釘子地区で生まれ育ち、八代目の自治会長である新沼一郎さんと、事務局の田村純一さんにお話を伺いました。

15区の活動拠点は、地区内に建つ国際医療福祉専門学校一関校の側にある「第15地区会館」です。旧室根村では、村内に三つあった公民館を一つに統合し、地域づくりの拠点として各種補助事業等により、村が行政区ごとに地区会館を整備してきました。第15地区会館は、釘子地区のほぼ中央に位置し、釘子地区の拠点施設としての役割も担っております。

現在の地区会館は、昭和62年2月に改築されました。改築にあたり施設の備品は、納税貯蓄組合より200万円の寄付を賜り購入したものです。広く大きな会館は、自治会や各種団体の活動で大切に使用されています。

年間の親睦行事と参加しやすい工夫

室根第15区自治会の発足は昭和56年11月。当時村が自治会の結成を進めており、「どうせ結成するなら矢越地区で一番早く自治会をつくろう」と、当時の行政区長で初代会長になった小山武三^{たけみ}さんを中心に結成。地区民が“みんなで集まり何かしよう”という考えで企画した芋煮会には、多いときは180人が集まったこともあり、そのレクとして班対抗の運動会や新婚カップルの紹介を行ったこともあり、大いに親睦を深めてきました。

年間行事の中で一番人の集まるのは、お盆に開催する夏祭りです。帰省した人と地元の人が交流でき、7つの班が各々^{でみせ}出店を出して祭りを盛り上げます。「日頃

顔を合わせられない人にも会えるので、行事としては最高ではないでしょうか」と笑顔をみせる新沼さん。

1月に開催する新年会は、地区会館で年祝いの方を招待し併せて開催。「地区会館で開催する手作りの新年会は、会費も抑えられ気軽に参加できます」と田村さんは語り、「会費は一人単位ではなく、一世帯単位で何人でも参加できるようにしています」と、参加率を上げる工夫も教えてくださいました。

農産物品評会への出品は130以上 室根産業文化祭を盛り上げる15区の農業

葉たばこ生産が盛んであった当地域は、昭和45年度から始めた田と畑の基盤整備事業の実施により生産規模を拡大させた歴史があります。平成元年には、県から農業体質強化拠点試験地の指定を受け、栽培技術を普及・定着させることを狙いとした3期9年間の事業を実施。葉たばこの生産と併せ野菜、花きの生産販売により農家所得の向上を図りました。

「事業で成果を出せたのは、指導する方の力や先に立つ地域のリーダーにも恵まれていた、仕掛人（県や村の職員）・引受人（地域住民）の連携がうまくできたから」と新沼さんは話します。

毎年農家組合と共催で開催する農産物品評会には、130点余りの出品があり年々盛会な品評会となっています。また、この出品物をさらに室根産業文化祭に出品しています。

長きに亘り地域を支えてきたお二人のお話からは、室根の今をつくりあげてきた歴史を深く教わる取材となりました。



室根第15地区会館

企業 紹介



代表取締役社長

くろさわ かずしげ
黒澤 一成さん

～基本情報～

◆代表取締役社長：黒澤 一成さん

◆連絡先：〒029-3103

一関市花泉町老松字蛭沢 102-1

◆電話：0191-36-1100

◆FAX：0191-36-1110

地域企業連携と災害時支援の協力で地域に貢献

地域外から見る視点を生かす

こんにやく類の製造加工販売を行っている株式会社須藤食品は、昭和39年に花泉町で製造販売を開始し、昭和62年に現本社工場に新築移転。紆余曲折を経て、平成16年に群馬県内でこんにやく原料問屋を経営していた黒澤一成さんが代表取締役に就任し、地域食材とは何か、地域企業とはどうあるべきかを考え動き、60名の従業員と共に同社を盛り上げています。

「全国各地を自分の足で営業してきた中で、人々とのふれあいや地域ならではの人情を肌で感じてきました。特に東北、一関、中でも花泉町の方々は人と人との繋がりを大切にしている方が多く温かみのある地域」と語る黒澤さんは、こんにやくと葱の生産で有名な群馬県下仁田市出身で農林業経験を経てこんにやく原料問屋を起業。営業として全国を回り、株式会社須藤食品とは昭和53年からの長い付き合いとのこと。代表取締役社長として就任して以来、持ち前の営業力と地域企業を地域の外から見る視点を生かしさまざまな課題を乗り越えてきました。

同社が製造・加工している原料は、群馬県産が主力ですが、ミャンマーにもアルコール精製製粉工場（ミャンマー初）の協力工場を持ち、8年前より、全国初のミャンマー産こんにやくの販売を行っています。また、旧花泉、千厩、藤沢町の農家にも契約栽培しており、今後、自社栽培も検討しているとのこと。

災害・緊急時の企業連携

未曾有の東日本大震災から5年が経過します。当時を振り返る黒澤さんは、「当社も大きなダメージがありました。地域企業間の横の連携がどれだけ必要かということがこの時身に染みしました」と語ります。

「当社は、食品を扱う企業ですから万が一にも備え

て貯水タンクがあります。断水時には、地域住民の生活用水に充てていただこうと貯水タンクの開放を行いました。緊急時ですから、地域への協力は当然のことだと思えます。しかし、従業員がいる以上企業復興もしていかなければなりません」と続けます。

「いわいの里クオリティフードグループ」が発足したのは震災後まもなくのこと。中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業の相談をする中で、室根町の株式会社オヤマとグループを組むこととなり、「企業間の復旧が整ったら、地域の皆さんにお返しをしよう」という強い意志を持ち企業復興に取り組みました。

今回の震災を機に、食品加工製造業の横の連携が図れるようになり、同グループ（現在は5社が加入）は情報交換や共有の場となっているのだそうです。「万が一の災害時に、それぞれの食品加工商品を提供する。当社ではこんにやく・糸こんにやく3千キロを2時間で準備し市に提供するという事で協定を結びました。また、通行車両へ災害の情報提供を行うこととしています」と、今後予想がつかない緊急時の対策を企業連携という形で地域に貢献しているのです。

次世代につなげ！世界につなげ！

地元小中高等学校の企業見学や企業体験受け入れを行い「地域企業に興味を持ってもらいたい」と育成にも力を入れている同社は、日本の伝統食材として海外に向けて流通拍車をかけるため、ハラル認証※を取得し、日本の伝統食材こんにやくのグローバル化も目指しています。

※ハラル認証とは・・・ハラルであると認められた製品等にマークを付与する制度です。具体的には、イスラム教が禁じているものを含まない食品等の規格を定め、原材料・製造工程・製品品質等を審査し、適合する製品にハラルマークを表示させることです。





センターの〇〇!

—平成 28 年度 いちのせき市民活動センター実施事業—

間もなく新年度が始まります。今回は、いちのせき市民活動センターが実施する来年度の事業の一部を、去年の写真を使いご紹介いたします。振り返れば、たくさんの方との出会い、ふれあい、つながりがありました。来年度も力いっぱい、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、ご参加よろしくお祈りいたします！



いちのせき市民フェスタ 16

開催日:2016年8月28日(日)

11回目となるいちのせき市民フェスタです。10回目という一区切りから新たな気持ちで、みなさんと盛りあがっていきます！企画はまだまだ検討中ですが、みなさん、お楽しみに！



みちのくワークショップフォーラム

開催日:2016年11月26日(土)

ワークショップの手法を学んでありそうで、あまりないですね。ということで、28年度も人気企画のフォーラムを開催します！一関がワークショップの祭典で熱くなる一日です。いまからスケジュールを予約しておいてください。



まちづくりコーディネーター養成講座

まちづくりの事務レベルで必要なノウハウをお伝えする講座を開催します。まちづくりに興味がある方、自治会などの事務局になった方など、初心者向けの内容で、当センタースタッフが丁寧に解説します。詳しい日程が決まりましたら、改めてご連絡します。



おしらせ

大東

ふるさとと青春の音

ふるさとを未来へ伝える心を育む、芦東山先生顕彰会との協同の特別展です。レコードや真空管ラジオなどなつかしい青春の音や岩手、一関、大東の歌や地域の学校の校歌などふるさとの音に焦点をあてて展示します。

【期間】平成28年1月30日(土)~3月21日(月)

【場所】芦東山記念館

【料金】一般300円 高校生200円

【問合せ】芦東山記念館

【電話】0191-75-3861

千厩

いちのせき市民活動センター 10周年記念事業「INDEX」

いちのせき市民活動センターの10周年を記念し、地方都市での中間支援のあり方について討議を行うパネルディスカッションを開催します。中間支援とは、団体との関わりなどのテーマでの企画を予定しています。

【日時】平成28年3月4日(金)13時~16時

【場所】なのはなプラザ3階大会議室

【料金】無料

【問合せ】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

一関

鎮魂と舞と希望の調べ

震災復興を祈念して、「未来へ向かって」をテーマに、神楽とピアノの演奏会を開催します。本公演はチャリティーとして益金はすべて、復興支援のため寄付します。未就学児童のご入場、乳幼児のご同伴はご遠慮下さい。

【日時】平成28年3月10日(木)18時30分開演

【場所】一関文化センター 大ホール

【料金】一般2,500円 小中高生1,000円

【問合せ】NPO法人一関文化会議所

【電話】0191-21-2121

一関

第13回どっから座公演 「仏坂の孝行息子 善八の物語」

磐清水地区に実在した親孝行息子の善八を題材にした創作劇です。【入場券取扱所】千厩・小梨・奥玉・磐清水市民センター、エスピアサービスカウンター、日野屋ブックセンター、菅良支店

【日時】平成28年3月13日(日)

1回目11時~ 2回目14時~

【場所】一関市千厩農村環境改善センター

【料金】1,000円

【問合せ】どっから座(菅原)

【電話】0191-52-2168

一関

一関民俗芸能祭

一関地方に古くから伝わる様々な民俗芸能の数々。その中でも、神楽や田植え踊り、太鼓、鹿子躍などの演目を上演します。当日の発表までに、汗と涙を流して一生懸命練習を重ねていますので、ぜひお越しください。

【日時】平成28年3月13日(日)9時30分開演

【場所】一関文化センター 大ホール

【料金】入場券800円 当日1,000円

【問合せ】一関民俗芸能団体協議会

【電話】0191-21-2555(阿部)

一関

音楽の絵本

金管5重奏のズーラシアンブラスと弦楽4重奏の弦うさぎ...動物たちが織り成す不思議なクラシックコンサート「音楽の絵本」シリーズが今年も開催されます!春休みに、親と子の触れ合いの時間としていかがでしょうか?

【日時】平成28年3月26日(土)13時30分開場 14時開演

【場所】一関文化センター大ホール

【料金】おとな1,000円 こども500円

【問合せ】NPO法人一関文化会議所

【電話】0191-21-2121

一関

鈴木秀和 スプリング・リサイタル

イタリアから帰国した一関出身のテノール歌手、鈴木秀和が、故郷への想いを込めて、スプリング・リサイタルを開催します。「荒城の月」「初恋」など、お世話になった方々への感謝と、ふるさと一関市への想いを込めて演奏します。

【日時】平成28年4月30日(土)15時開演

【場所】一関文化センター 中ホール

【料金】前売2000円 当日2300円

【問合せ】カミヤ

【電話】0191-23-5184

花泉

箱庭作り教室

鉢の中に、植物をメインに人形や動物などの小物を並べ景観を構成し、箱庭寄せ植えを作ります。主に多肉植物や観葉植物を使うので管理も簡単!20分から40分程度で制作できますので、お気軽にご参加ください。

【日時】随時

【場所】花と泉の公園

【料金】1,500円~

【問合せ】花と泉の公園(花泉観光開発株式会社)

【電話】0191-82-4066

一関

お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生活を丸ごと体験できるお試し移住をしてみませんか? 敵美の棟貸切ゲストハウス「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空き家情報をご用意しています。予約は下記電話番号まで。

【期間】2泊~7泊まで選べます。

【体験場所】一関市敵美町字外谷地

【料金】体験料は下記まで問い合わせください。

【問合せ】いちのせきニューツーリズム協議会

【電話】0191-82-3111

今月の表紙



今月の表紙は、弥栄小学校の校庭にあるスペースシャトルです。高い位置にあるため国道284号線からでも見る事ができます。校庭に宇宙を感じる遊具がある学校はなかなか珍しいのではないのでしょうか。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 様々な活動をしている団体の新聞記事を見たいのですが

A いちのせき市民活動センターでは、情報コーナーに「新聞記事ファイル」を公開しております。市内の新聞に掲載された市民活動団体の新聞記事を、日付順、団体名順、地域ごとにファイリングし、探しやすいように工夫していますので、是非一度ご覧ください。

